２０１０／０５／０２　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：栄光の希望を見失わないために５
聖書箇所：ローマ人への手紙　８章２８節

新約聖書ローマ人への手紙８：２８をお開きください。私たちは８：１８から私たち信仰者に与えられた永遠の希望についてパウロが教えることを学んで来ています。イエス・キリストを信じる者たちに与えられた永遠の希望、主によって救われた者はその救いを決して失うことがないこと、また、私たち信仰者は後にこの罪のからだから解放されて栄光のからだをいただくこと、そして、主とともに永遠を過ごすということでした。私たちにはすばらしい永遠の祝福、希望が備えられています。パウロはそのことを教えた上で、私たち信仰者が日々の生活の中で、主に従って行くその歩みの中で経験するいろいろな問題、いろいろな苦しみ、いろいろな悩み、その中にあってもしっかりと希望を見据えて忍耐をもって歩み続けて行くようにと励ましました。困難は私たちが栄光に入るための必須条件で、必ず、経験することですが、目をしっかりと主に向けて、この約束をしっかり覚えて、忍耐をもって忠実に歩み続けるようにと、そのことをパウロはこの１８－２５節で私たちに教えてくれました。

☆神の助け

・聖霊なる神の助け

その歩みを私たちが為して行くために、神は私たちの弱さをちゃんと知っておられるから、そこには神の助けが備えられているということを、パウロはこの後私たちに教えているのです。私たちが前回見たのは「聖霊なる神の助け」でした。みこころに従って歩みたいと願っていながら、時にみこころが何であるか分からない私たち、どのように祈ったらいいか分からない私たちのために、聖霊は執り成しをしてくれる、そのような主を私たちはいただいているということをパウロは教え、そして、私たちを励ましたわけです。

Ａ．神の約束：すべてのことを働かせて益としてくださる

神が備えてくださった助けの二つ目は２８節に記されています。パウロは、聖霊があなたのために執り成しをする、それだけでなく、実は、神はすべてのことを信仰者であるあなたの益のために為されるということをここで教えるのです。２８節のみことばは皆さんよくご存じです。

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」

神の約束がここに記されています。そして、恐らくこの約束は多くの皆さんを励ましている約束ではないでしょうか？多くの皆さんに希望をもたらした約束かもしれません。なぜなら、皆さんはこの約束を覚えていらっしゃるし、大変な時にこの約束を思い出し、また、私たちはこの約束を語って励ましたり励まされたりして来ました。確かに、私たちにとってすばらしい約束がここに記されているのです。

しかし同時に、このみことばが教えていない約束を、私たちは人に語ったり、また、人から聞かされたりして、この約束を誤解しているケースもあります。いくつかあるでしょう。どのような解釈がされているのかを皆さんに聞いてみなければいけませんが、私たちがよく知っているのは次の二つです。

１）間違った解釈

（１）信仰者により良いものが与えられる約束

今あなたが持っているものよりも、はるかにすばらしいもの、より良いものが与えられる、その約束がここにあると信じている人がいます。例えば、仕事のことで考えてみましょう。失職してしまった時、「神さまはあなたに今までの仕事よりもよりすばらしい仕事を備えてくださっている」と言うかもしれない。いろいろな試験に落ちた時には「神さまはきっとあなたにより良い職場を与えようとしておられる、また、より良い学校を用意してくださっている。」と言います。つまり、今持っているものよりもよりすばらしいものを神は約束してくださっていると、そのような説明をする時に、このみことばを使う方がおられると思います。しかし、結論から言うなら、１００％外れてはいませんが、１００％正しいわけではありません。

（２）最終的にうまく行くという約束

「大変なことがいっぱい続いているけれども最終的にはすべてうまく行きますよ。」と、今は問題や苦しみが多いけれども、後ですべてのことが好転すると言うのです。よく「結果オーライ」と言いますが、そういう約束だと言う人たちがいることも事実です。

いろいろな解釈がなされていると思いますが、ここでパウロが教えたかったことはいったい何なのか、

そのことを私たちは知らなければいけないし、知らなければ、みことばを自分勝手に解釈していると言われても反論のしようがありません。ですから、パウロが何を言いたかったのか、パウロが教えようとしたことはいったい何だったのか、私たちはそのことをは見なければいけないわけです。

２）正しい解釈

（１）その意味

（ａ）「すべてのことを働かせて」

新改訳聖書には**「神がすべてのことを」**とこの文の主語は神であると記しています。でも、実は原語にはこの「神」ということばは入っていないのです。ですから、この文の主語はいったい何だろうということで、神学者たちの間ではいろいろと議論があります。けれども、そのような議論は横に置いて、私たちが今覚えたいことは、すべてのことを働かせて益としてくださる、その働きを為されるのは神であることは間違いないということです。その説明をこれから見て行きます。**「神がすべてのことを働かせて益としてくださる」**、その働き手は間違いなく神です。ですから、新改訳聖書がこのように訳した理由はよく分かります。確かに、神がこのような働きを為しておられるからです。

（ｂ）「益としてくださる」：「善」、「正しい」、「良いもの」

それよりももっと大切なことがこの後に書かれています。それを見てください。それは**「益としてくださる」**ということです。先ほどいろいろな解釈を話しましたが、その解釈のカギになっているのはこのことばです。**「益としてくださる」**とはどういうことでしょう？

実は、この「益」というギリシャ語は「ローマ人への手紙」の中だけでも２１回も出て来ます。ローマ書を見ると、このことばはあるところでは善悪の「善」と訳されていたり、「正しい」と訳されていたり、「良いもの」と訳されています。そして、今私たちが見ているところ８：２８や１３：４、１５：２では「益」と訳されています。そこで私たちが考えたいことは、私たち信仰者、クリスチャンにとって「益」とはいったい何かということです。次の２９節を見ると、パウロはその答えを与えています。**「なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。…」**と、これが私たち信仰者にとって「益」、「善」、「正しいこと」、「良いもの」だと言うのです。つまり、神はあなたを主イエス・キリストに似た者に日々変えて行こうとされている。それがパウロがここで言っている「益」だと言うのです。

主イエス・キリストがどのように生きられたのか、そのことは福音書を見るならよく分かります。そして、イエス・キリストの歩みを見た時に私たちが言えることは、イエス・キリストはすべての点で完璧に歩まれたということです。別の言い方をすれば、イエス・キリストはすべての点で父なる神のみこころに従って生きて行かれました。その結果、主イエス・キリストは神の栄光を現わしたのです。また、別の言い方をすれば、主イエス・キリストは神がどのようなお方かを世に明らかにしたのです。ですから、ヨハネの福音書１：１８を見ると、**「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。」**と書かれています。神は霊ですから神を見た者はだれもいません。しかし、イエス・キリストはご自分の歩みを通して、すべてをお造りになった真の神がどのような神であるのか、どのようなお方であるのかを明らかにされたと言うのです。

そのことを神はあなたを通して為そうとしておられるのです。イエス・キリストを信じたあなたを神は生まれ変わらせてくださった。そして、聖霊なる神があなたを日々キリストに似た者へと変えて行かれます。Ⅱコリント３：１８にもそのことが教えられています。**「…鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。」**と。神は何のために私たちを変えて行こうとするのでしょう？ここがカギです。イエス・キリストが地上におられた時に、彼の生き方は１００％神の栄光を現わしました。神がどのようなお方であるかを人々の前に明らかにしました。そのことを神はあなたを通して為そうとしているのです。だから、あなたが変えられて行くのです。ピリピ１：６に今私たちが見ている「益」ということばがこのように訳されています。**「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。」**、**「良い働き」**とあるこの**「良い」**ということばがそれです。そうすると、パウロはここで**「あなたがたのうちに良い働きを始められた」**と、これは過去のことです。イエスを信じた時にこの働きは始まったのです。そして、**「完成させてくださる」**とこれは未来のことですから未来形が使われています。つまり、信じた時に始まった働きが、未来において完成すると言うのです。どんな働きが始まったのか？先ほど見たように、私たちが主イエス・キリストに似た者に変えられて行くこと、「聖化」というプロセスです。その働きがイエスを信じた時に始まり、そして、その働きが終わるのは私たちが主イエス・キリストにお会いする時です。栄光のからだに変えられたならその働きは終わるのです。

ですから、栄光のからだに変えられるその時まで、私たちは毎日の生活を通してキリストに似た者に徐々に変えられて行くのです。それがクリスチャンです。そのような働きを神は私たちのうちに為して

くださっているのです。何のためですか？もうすでに見て来たように、変えられることによって、私たちが私たちを罪から救ってくださったすばらしい神がどんなお方であるかを世の中に明らかにして行くためです。神の栄光を現わすためにです。ですから、８：２８に戻って、

○「益となる」とは？

・自分の願いがかなえられるということではない

・私たちが存在している究極的目的を果たすこと：神の栄光を現わすこと

ですから、「益となる」ということは、ある人たちはそれは私の願い事がかなえられることだと言うかもしれないが、パウロはそうではないと言い、また、私たちが存在している究極的な目的を果たすことが益となるとパウロは言うのです。その目的を私たちが果たして行くために、私たちはキリストに似た者へと変えられることが必要だと言うのです。ここで考えていただきたいことは、この８：２８で**「神がすべてのことを働かせて益としてくださる」**と、パウロが言いたかったことは、神はあなたの生活におけるすべてのことをこの目的のためにしておられるということです。それはあなたがキリストに変えられるという目的のためです。**「すべてのことを働かせて」**とあるわけですから例外がないのです。あなたの生活に起こるすべてのことはこの目的のために神が与えておられると言うのです。

ですから、私たち信仰者、クリスチャンは偶然にこんなことが起こったとか、幸運だったというようなことは言いません。なぜなら、聖書はそのように教えていないからです。聖書が私たちに教えていることは、私たちの生活に起こるすべてのことは、主なる神が、今私たちが見ているこの目的のためにすべて用いているということです。このように考えた時に、私たちが毎日経験するさまざまな問題や困難、苦しみ、喜び、感謝など人生のすべての出来事は、私たちがキリストに似た者に変えられるために神が与えておられる、私たちの信仰が成長し、よりキリストに似た者に変えられて行くために、また、神の栄光をより現わす者となって行くために神が与えておられるということが分かります。確かに、私たちの生活にはいろいろな試練、大変な困難が訪れます。しかし、それらを通して私たちは変えられて行くのです。パウロが言ったことを思い出してください。Ⅱコリント1：８－９でこのように言います。**「兄弟たちよ。私たちがアジヤで会った苦しみについて、ぜひ知っておいてください。私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、ついにいのちさえも危くなり、:9 ほんとうに、自分の心の中で死を覚悟しました。これは、もはや自分自身を頼まず、死者をよみがえらせてくださる神により頼む者となるためでした。」**と。大変な苦しみ、死を覚悟するような苦しみにパウロ自身が会ったことを言っています。しかし、その目的をパウロはこのように告白しています。このような苦しみに会ったのは**「もはや自分自身を頼まず、死者をよみがえらせてくださる神により頼む者となるためでした。」**と。神に信頼する者となるために神はこのようなことを私にもたらしたと言うのです。

そうすると、私たちは信仰者として生きて行く上で、ひょっとすると仕事を失うことが起こるかもしれません。みことばは私たちにより良い仕事を与えるという約束を与えていません。この経験も実は、私たちにとって信仰が成長するために神が必要として与えてくださっている機会だと言うのです。もちろん、他の箇所では「神はすべての必要を満たす」と約束されています。しかし、このローマ８：２８でパウロが言うことは、神はある目的のために、すべてのことを良しとしてあなたの人生にもたらすと言っているのです。

（２）その例

（ａ）人のなす罪も益となる！

実は、その中に罪も含まれるのです。罪も、神があなたの成長のためにもたらすと言うのです。どういう意味でしょう？私たちの生活の中で人々が私たちに対して罪を働くことがあります。皆さんがまじめに神に喜ばれることをしていても、世の中は皆さんを喜ぶわけではありません。様々な悪を企てたり、また、悪を働くことがあります。しかし、神はそのすべてのことを見た上で、そのすべてを知った上で、その罪をも用いて、あなたの信仰の成長にそれをお使いになるのです。一つの例を挙げましょう。

◎ヨセフの例

皆さんがよく知っておられる旧約時代のヒーローの一人であるヨセフ、彼のことは創世記３７－５０章に記されています。彼はある夢を見ます。畑で束を束ねていると、自分の束が立ち上がって真ん中に立ち、兄たちの束が周りでその束を伏し拝むという夢です。父親のヨセフへの偏愛でただでさえもねたみを抱いていた兄たちは、それを聞いて「何という奴だ！」とますます怒るのです。そして、また別の日、ヨセフは太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいる夢を見たと言います。兄たちは「もう我慢ならない！」と言って、ヨセフを穴に閉じ込めた後、彼をイシュマエル人に売り払うのです。イシュマエル人はヨセフを連れてエジプトにやって来ます。そして、そこでエジプトのパロの侍従長ポティファルに彼は売られてしまうのです。ポティファルはこのヨセフによって祝されて、ヨセフにすべての財産を任せるようになります。ところが、このポティファルの妻の偽りによって、彼は冤罪によって監獄へと送

られて行きます。彼は神の前に正しいことをしました。罪の誘惑を拒んで神の前に正しいことを選択しましたが、その結果は監獄に入れられたのです。
　しばらくするとパロに仕える二人の者たちが同じように収監されました。一人は王の献酌官であり、もう一人は調理官でした。この二人が夢を見ました。ヨセフはその解き明かしをしました。一人は殺されるが、一人は自由にされると、その通りのことが起こりました。そして、自由になった献酌官長に対してヨセフは「あなたがしあわせになったときに、きっと私を思い出して、ここから出られるようにしてください」と告げます。ところが、この献酌官長は２年もの間ヨセフのことを忘れてしまうわけです。パロが夢を見て、その夢の解き明かしをだれもすることができない時に初めて、献酌官は「そういえば！」とヨセフのことを思い出すのです。ヨセフの生涯を見た時に、みことばが教えることを見る時に、ヨセフは神の前に喜ばれることを一生懸命しようとしたけれど、人々が彼に対して悪を働きました。しかし、皆さんご存じのように、そのヨセフが最後にこのように証をします。創世記５０章に記されていることですが、彼らの父であったヤコブが亡くなった後、ヨセフの兄弟たちは心配になりました。というのは、ヨセフは父が生きている間は良くしてくれたけれども、父が亡くなった今、きっと自分たちのしたそのひどい罪に対して仕返しをするに違いないと思うのです。彼らがヨセフの前に出て行くのですが、その時にヨセフはこのように言っています。１９－２１節**「ヨセフは彼らに言った。「恐れることはありません。どうして、私が神の代わりでしょうか。:20 あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとなさいました。それはきょうのようにして、多くの人々を生かしておくためでした。:21 ですから、もう恐れることはありません。私は、あなたがたや、あなたがたの子どもたちを養いましょう。」こうして彼は彼らを慰め、優しく語りかけた。」**と。
　人々の罪、実は、それをも神はお使いになってヨセフにとって益としたと言うのです。確かに、ヨセフ自身も「神さま、私は何をしたのでしょう？」と思ったことでしょう。なぜなら、このような災いが自分の生活に訪れるのは何か私たちが悪いことをしたことの報いだと思うからです。ヨセフもそう考えたかもしれません。正しいことを繰り返しているにもかかわらず、自分の生活に訪れることはこのような悲しいこと、辛いことの連続だと。しかし、実は、そのすべてのことを通して神のみこころが為されたのです。すべてのことを神はお用いになってすばらしいご計画を実現なさったのです。そのことをヨセフはこのように告白したのです。
　また、ヨセフは自分がヨセフであることを兄たちの前で告白をする時にこのように言います。創世記４５：４－８**「ヨセフは兄弟たちに言った。「どうか私に近寄ってください。」彼らが近寄ると、ヨセフは言った。「私はあなたがたがエジプトに売った弟のヨセフです。:5 今、私をここに売ったことで心を痛めたり、怒ったりしてはなりません。神はいのちを救うために、あなたがたより先に、私を遣わしてくださったのです。:6 この二年の間、国中にききんがあったが、まだあと五年は耕すことも刈り入れることもないでしょう。:7 それで神は私をあなたがたより先にお遣わしになりました。それは、あなたがたのために残りの者をこの地に残し、また、大いなる救いによってあなたがたを生きながらえさせるためだったのです。:8 だから、今、私をここに遣わしたのは、あなたがたではなく、実に、神なのです。神は私をパロには父とし、その全家の主とし、またエジプト全土の統治者とされたのです。」**と。ヨセフは分かっているのです。人がした罪でも神はそれをもお用いになって神のご計画を為されるということです。
（ｂ）自分の犯す罪も益となる！
　もう一つ、自分の犯す罪、実は、それも自分の益のために神はお用いになるのです。どういうことなのでしょう？決して、罪自体が益ではありません。神が罪をお喜びになるわけではなく、却って、罪を憎まれます。罪は神を悲しませることです。罪は存在目的である神の栄光を現わさないだけではなく、私たちの信仰の成長を妨げるものです。しかし、あわれみに富む神は、私たちの罪をも私たちの信仰の成長のためにお用いになるのです。なぜでしょう？私たちが犯した罪を神の前に悔い改める時に、私たちは二つのことに気づきます。一つは自分の罪深さです。神の前に自分の罪を心から悔い改める時、「神さま、私は余りにも情けない、余りにも愚かです。」と言って、私たちは自分の弱さを今一度覚えてその愚かさを嘆きます。「何と愚かなのだろう、何と弱いのだろう」と。同時に、私たちはこんなに弱い愚かな私たちを赦し続けてくださる神の恵みを覚えて感謝するのです。なぜ、私たちの神はこのように私たちが罪を告白すれば何度でも赦し続けてくれるのか？と、こうして罪が赦されることを通して私たちのこの方に対する感謝が増して行くのです。神のご恩寵に対する感謝を通して、より神を愛する者へと変えられて行きます。同時に、私たちはより罪を憎む者へと変えられて行くのです。
◎ダビデの例
　その一つの例があのダビデ王です。神が愛された一人の勇者です。ダビデはご存じのように姦淫の罪を犯し殺人の罪を犯しました。Ⅱサムエル１１章で教えて行くように、ダビデはバテ・シェバという美しい女性を見て情欲を抱きその夫であるウリヤを殺そうと働き、実際に彼を殺してしまうのです。この

ような大きな罪を犯した時に、預言者ナタンが彼の前にやって来てその罪を明らかにしました。その時にダビデが告白したことが詩篇５１篇に記されています。５１：１７に**「神へのいけにえは、砕かれたたましい。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません。」**とあります。自分の罪が明らかにされた時に彼は砕かれたのです。自分の愚かさ、醜さに彼は打たれるのです。こうして彼は謙虚にされるのです。先ほど私たちが見たように、罪を犯す度に私たちはますます砕かれて行きます。信仰の成長は私たちから醜いプライドを奪って行きます。私たちは神の前にいかに愚かな者であるかということがますます明らかになって行きます。そして、私たちはこのような私を愛して受け入れてくださった神を称える者に変わって行くのです。このダビデも自分を誉めることはできました。勇者でしたから、すばらしい王、すばらしい戦士だったから。しかし、彼は神の前で砕かれて神に対する正しい態度をもって生きるというその生き方へと神のあわれみによって導かれて行ったのです。

３）その反論

こうして見た時に、人が私たちに対して犯す罪も、私たち自身が犯す罪も神はそれらをすべて使って私たちを成長させていってくれると、このように聞くとある人は「では、罪を犯せばいいじゃないか、罪を犯すことによって信仰が成長するなら、もっともっと罪を犯したらいいではないか」と思われるかもしれません。しかし、そのことはもうすでに見て来たように、ローマ３：８でパウロが否定しています。**「善を現わすために、悪をしようではないか。」と言ってはいけないのでしょうか。――私たちはこの点でそしられるのです。ある人たちは、それが私たちのことばだと言っていますが、――もちろんこのように論じる者どもは当然罪に定められるのです。」**と、罪を犯しても構わないと言う人々に対して、みことばは明らかにそれは大きな間違いであると言います。同じローマ６：１－２にも**「それでは、どういうことになりますか。恵みが増し加わるために、私たちは罪の中にとどまるべきでしょうか。:2 絶対にそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうして、なおもその中に生きていられるでしょう。」**とあります。なぜなら、救われた私たちは神が憎んでおられる罪を、神が悲しまれる罪を犯すことも犯し続けることも、また、その罪の中に留まり続けることもできないからです。そうしたくないのです。悲しいけれど、私たちはこの地上にいる間は罪を犯さない完全に聖い者にはなりません。しかし、私たちの願いは変えられました。神に喜ばれることをして行きたいと、そのように心変えられた者は罪の中を平気で歩み続けることは不可能なのです。神に喜ばれることをして行きたいと願っているのに、悲しいことに、日々の生活においてはそれと全く逆のことを私たちはしてしまう者ですが、神の前に悔い改めて砕かれるなら、もっと神を信頼しもっと神に感謝する者へと変えられて行きます。このように私たちは信仰において成長して行くと言うのです。

新約学の教授であるダグラス・モー先生はこのように言います。「神の許可なく導きなしに起こることはない。我々が言うこと行なうこと、人々が我々に行うこと我々について言うことも、あらゆる経験もすべては我々の益のために、特に、神によって用いられる。どのように働いて益となるのかを常に理解できるわけでもなく、すべてを常に喜べるわけでもない。しかし、神が目的もなく我々の生活にもたらすものは何もない」と。すべてのことは神の計画の下でなされていると言うのです。それはどういうことか、皆さんお分かりでしょう？私たちがキリストに似た者に変えられるために、その目的のためにすべてのことを為しておられるのです。だから、パウロは**「私たちは知っています。」**と言うのです。これが確信だったのです。私たちの人生に起こるすべてのことは私の信仰をますます成長させるためだと。

≪適用≫

そこで私たちが考えなければいけないことは、自分の願い事がかなうことばかりを望んでいないかどうかです。主なる神はあなたが栄光を現わす者へと変えられるためにすべてのことを与えてくださっています。日々の生活に起こるすべてのことです。苦しいことも楽しいことも…。そのことを覚えてあなたが生きているのかどうか、そのことを考えなければいけません。

Ｂ．約束の対象：キリスト者だけに与えられた約束！

神の約束を教えた後、二つ目にパウロはこの２８節で約束の対象について語っています。この約束が与えられているのはだれなのでしょう？**「神を愛する人々」**、そして、**「神のご計画に従って召された人々」**と書かれています。この二つが救われたクリスチャンたちの特徴です。

１．「神を愛する人々」

まず初めに**「神を愛する人々」**とパウロは言います。これはクリスチャンの特徴です。すべての人間は生まれながらに神に逆らう者であり、神に敵対していた者です。しかし、救われたことによって神を愛する者へと変えられました。なぜ、変えられたのでしょう？神の愛が分かったからです。イエスを信じていない皆さんは、主イエス・キリストがあなたのことを愛しているということを何度聞いても、そのすばらしさが分かりません。そのことを感謝もしません。しかし、イエス・キリストを信じた者たちはそのことを心から感謝する者になります。神はこのような罪人である私を救ってくださった。なぜです

か？Ⅰヨハネ４：１９が教えるように**「私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。」**と、神の愛が分かった時に初めて、私たちは神を愛する者に変えられ、人を愛する者に変えられるのです。神が私を愛してくださっている、そのことは、神が私たちのうちに働かれる時に明らかになるのです。神が私たちの目を開いてくださる時に、どれほど自分が愛されているかが明らかになるのです。

２．「神のご計画に従って召された人々」

二つ目の**「神のご計画に従って召された人々」**の**「神のご計画」**についての説明は２９－３０節に出て来ます。私たちは次回、そのことを見たいと思います。非常にすばらしい神のご計画があります。今、私たちが覚えておきたいことは、神のご計画に沿って救いへと導かれた私たち信仰者が、この救いに与ったことは偶然ではないということです。あなたが救われたことは偶然ではないのです。その背後にはすばらしい神のご計画があるのです。神があなたのうちにどのように働き、どのようにこの救いへと導いてくれたのか、その神の深遠なるご計画を私たちは次の箇所で見ます。この世界を造る前から神はそのことを定めておられ、そして、その計画に基づいてあなたを救いへと導いてくださったのです。パウロはⅡテモテ１：９でこのように言います。**「神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自身の計画と恵みとによるのです。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられたものであって、」**と。神が働いてくださった、神が私たちを救ってくださった、すべては神のご計画に基づくと言うのです。

パウロが２８節で**「神のご計画に従って召された人々」**と言ったこの**「召された」**ということばは、すでに見ました。ローマ１：１にありました。このことばには二つの意味があります。一つは、神が人をご自身の特別な働きに就かせる時に「召される」ということばが使われます。例えば、祭司、宣教の働きのため、使徒となるという時にこのことばが使われます。それがローマ１：１でパウロが語ったことでした。**「神の福音のために選び分けられ、使徒として召されたキリスト・イエスのしもべパウロ、」**と、使徒としての務めに神ご自身が私を召してくださったと言っています。

もう一つの意味は、神が働いて罪人を救いへと導くこと、「救い」においてもこの「召し」ということばが使われます。確かに、神は私たちにすべての人々に福音を語りなさいと言われました。しかし、神が特別に召される人たちが救いに与るのです。それを「有効召命」と言います。そのことはこの後、私たちが２９節のみことばを見る時に学んで行きます。神があなたのうちに働いて神があなたをこの救いへと召してくださった。神のご計画に基づいて救われた者たち、私たち信仰者は決して救いを失うことはありません。また同時に、私たちの日々の生活において神の助けが常に与えられていると、パウロはそのことをここで私たちに教えたのです。

クリスチャンの皆さん、このローマ８：２８でパウロが教えたことは、あなたの生活に起こっていることはすべてこの目的のために起こっているということです。そのことをしっかりと覚えて、すでに見て来たように、神にしっかりと信頼を置いて忍耐をもって忠実に歩み続けて行くことです。この約束はクリスチャンに与えられたものです。クリスチャンには神はすべてのことを用いてその信仰が成長するように働いてくださるのです。

では、クリスチャンではない人々に対してはどうなのでしょう？そこには警告があります。パウロはすでに見た箇所ですがローマ２：５－６でこのように警告を与えています。**「ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めのない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現われる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。:6 神は、ひとりひとりに、その人の行ないに従って報いをお与えになります。」**と。つまり、イエスの救いを受けていない人には警告がある、それは、あなたの犯す罪に対してはあなたが自分自身でそれを精算しなければいけないという警告です。信仰者の場合は違いました。神は私たちに罪を犯しなさいと言っているのではありませんが、悲しいことに、現実に私たちは日々罪を犯して行きます。しかし、罪赦されている者たちは神はその罪をも使ってあなたの信仰を成長させると言ったのです。しかし、罪赦されていない人たちに対しては、そのような約束はされていないのです。罪赦されていない人たちには、あなたの罪はすべて神の前に明らかであり、そして、あなたの罪は必ず神の前でさばかれると言われるのです。私たちがこの救いをまだお受けになっておられない皆さんに心からお勧めすることは、この救いを心から今求めてイエス・キリストをお信じになることです。救い主の前に救いを求めて出て行かれることです。その時に、神はあなたをこの祝福の中へと招いてくださいます。

≪適用≫

信仰者の皆さん、私たちに与えられた救いは、神の深い摂理によって与えられたものでした。私たちはそのことを本当に心から感謝しているかどうかです。そして、その感謝を日々の生活においてあなたはどのように表わしているかです。私たちがこのようにして繰り返して神から教えられていることは、私たちに与えられている救い、永遠の希望は神の大きな犠牲に基づくものだということです。私たち信仰者がそのことを覚えて、そして、それを心から感謝している者として、日々の生活を歩んでいるのか

どうかです。しっかりと見上げなさい！神があなたのために何をしてくれたのかを、あなたに与えられた希望がどんなにすばらしいものかを、そして、あなたを救ってくださった神に忍耐をもって従って行きなさいと、それが私たち救われた者に神が期待しておられることです。